



TITLE:

1938年9月の天象

AUTHOR(S):

---

CITATION:

1938年9月の天象. 天界 1938, 18(208): 80-78

ISSUE DATE:

1938-07-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167689>

RIGHT:

颱風一過 内地では未だ残暑の衰へぬのに閉

口して、恐る恐る氣の弱い颱風一過を望む頃、大陸の奥では、もう日射の弱りが敏感に作用し始めて、陰山の影には、周期的なアジアの嵐が胎動して来る。締め付ける様

1938年

## 9 月 の 天 象

ないぎたない暑さも、一夜で迫る寒氣と變り、さなくも勞苦の多い皇軍將士を更に無慈悲にも痛みつける。内地でも、秋口ほど急激に來る季節の變り目は他に無い。唯、日數にすれば、僅か二三日の雨ですつかり變る。一度び秋になると、空の星も、何んだか今迄とは別の様な氣さへする。夏の中心星座、白鳥、琴、鷺、射手等が、天頂から西南へと、白い銀河にそつて並んで居る。靜々と夜更に露が草木を濡らせて來ると、東北にカシオペアが可なり高く、ペルセが其れに續く。ペガスは東天に高いが、見た目には、天馬を想像するよりも、大きな箱が懸けられた様に見える。其の左手の一角からはアンドロメダが東北に派生して、更に其の右隣りには、三角、牡羊と小さな星座が控へて居る。南から東南に位置を占めて居る山羊と水瓶は、あまり見ばえのない星座であるが、其の東南隅には、南魚の $\alpha$ 星が、獨立的存在を示して居るのが一寸目を引く。然し其れよりも、是等の看過され勝ちな星座に在つて、トテツも無い大きな星——木星が、臨時首班の席を占めて、むしろ天下を睥睨して居るかの様にさへ見へる。“一寸待つて下さい、器量は私の方がダンゼン上ですよ”と云はぬばかりに、輪を傾けた土星が嬌態を示して、遅ればせ乍ら、是れも淋しい魚座と共に東から昇つて來るのも、望遠鏡所持者にとつては、確かに待たれて居た楽しみである。

太 陽 前半月は“しし”座、下半月には“乙女”座へ移る。赤緯も $+8^{\circ}37'$ から $-2^{\circ}27'$ 迄と南へ降り、其の間24日2時秋分點を通過する。従つて月始には12時間35分あつた晝間も、月末には11時間52分と逆に夜間より短くなる。晝夜平分に最も近いのは、秋分よりも少し遅れて27日である。薄明の繼續は1日には19時55分、16日には19時29分、30日には19時7分に終焉する。

月 先づ1日“天秤”座、月齡6.5から始まる。翌2日には上弦、5日には遠地點を通過して、視直徑は $29/31''$ となる。10日には魚座で満月、此の前後には白

道の赤緯が急に北に昇るから、月の出の遅れが比較的少なく、特にヨロツバの様に高緯度の所では、此の影響が大きいから、收穫月(來月には狩獵月)の名が付いて居る。13日からは、薄明の終焉よりも月の出の時刻が遅れるから、満月前後には無かつた闇夜の時間が少し出来て来る。17日には下弦、 $2_0$ 日には近地點を通り、視直径は  $32'30''$  迄増大する。23日には全く闇夜となり、翌24日には“乙女”座で新月となる。新しい三日月が見えるのは27の月齢3.1からだらう。(月驗は日本中央標準時  $9^h$ )

**水 星** 既に曉天に廻つて、14日には最大離角西  $18^\circ$  に達する。

**金 星** 11日東方最大離角  $46^\circ$  に達する。日没より約2時間半空に残る。光輝は  $-3.9 \sim -4.2$  迄、視直径も  $22'' \sim 31''$  と増して来る。型のみは逆に9日月より7日月迄へと細るが、今月が一番見頃!!

**火 星** 曉の星，“しし”座の中央部を順行中であるが、太陽に近くて全然観測出来ない。

**木 星** 對衝を少し過ぎた所、水瓶から山羊の境い目あたりを逆行中である。光度は  $-2.4$  等、視直径は  $46'' \sim 43''$  と徐々に減少して居るが、位置は観測に最適である。

**土 星** 魚座の中央邊に居て、ゆるやかに逆行して来る。對衝を間近かに控へて、月初めには21時、月末には19時に東から出て来る。輪の傾きも前月と大差なく、 $10^\circ$  を保つて居る。光度  $0.5$  等、視直径  $17'' \sim 18''$ 。

**天王星** “牡羊”座の東端に在つて、徐々に逆行中。光度  $6.2$  等、視直径  $3.6''$ 。

**海王星** 依然“しし”座に在つて、14日には合となる。全く見られない。

**冥王星** “かに”座に居る。其れだけの事。

**射手座 V 505** 9月中旬に極小の観測出来るものは、5日20.5時、12日23時、18日21時であるが、もう見難くなつた。

**ペルセウス  $\beta$  星** 1667年に発見された有名な“アルゴール”，あまりにも著名であり、今更観測してさして價值は無いが、9月中旬に其の極小が見易いのは、19日0時、21日21時の2回である。

**ミ ラ** “アルゴール”にも増して有名な此の星は、8月20日極大光輝に達する豫定である。然し、此處2—3年、極大が少し遅れて居る傾向があるので、未だ未

